愛知学院の小出院長が
善光寺育英会の顧問に就任

海外留学僧派遣育英会は顧問に新しく愛知学院大学学長・小出忠孝氏（愛知学院長）の就任を決め、黒田理事長が十一月十八日に名古屋市千種区楠元町の急愛知学院本部を訪問して、小出学長に委嘱状を手渡した。

小出学長への顧問委嘱は、これまでに愛知学院大学の引田弘道助教授や森祖道教授を育英生としてイギリス、スリランカへ派遣、また新年度の育英生としてスリランカから愛知学院大学へ留学中の学生の採用を決定するなど、同大学との縁が深まってきたことなどによる。

小出学長は、善光寺育英会がこれまでに十四カ国・四十一人の育英生を採用してきたとの実績を聞いて、「愛知県で四人の留学生に対し、二年間、全額負担する育英制度がある。県でやって四人だ。一カ寺でこれだけの内容の事業を継続することは大変なこと。宗門にこのような人がいることは素晴らしい」と高く評価した。

また、愛知学院大学は現在、アジア各国からの留学生を約百六十人受け入れていると語り、他の私立大学がおもに中国、韓国、台湾など東アジアからの留学生を対象としているのに対

し、愛知学院大学はインドネシア、タイ、ビルマ(ミャンマー)、マレーシア、バングラデシュ、インド、スリランカなど、広く南アジアにも及んでいると話した。

小出学長は、留学生たちが高度経済社会の日本で下宿し、授業料を払いながら生活することは経済的に相当な困難を伴うと述べ、「アジアの留学生を受け入れて、いい教育をして帰したい。今日明日のことではない。二十年後、三十年後の種蒔きをやっている。その意味で黒田理事長のお考えに心から敬服する」と善光寺の育英会事業に全面的な賛意を表明した。

これに対し、黒田理事長は「善光寺の育英会は、日本から海外へ、海外から日本への留学生を援助している。留学生が自分の国へ帰ったあと、それぞれの国を通して、世界の平和と人類の発展のために働いてくれると信じている」と所信を語り、事業への理解と協力を求めた。